



「音楽で幸せをおすすめわけしたい」という思いが
体中に染み渡る優しい音色となり、人の心を動かす

街のアーティスト

urban
artist



「ステージの上で演奏するのいいけれど、お客さんから手の届くくらいの場所で弾くのが好きですね。伝わり方もちがうと思うんです。」
岐阜市北島の珈琲専門店「豆茶房」で定期的に行っているライブでは、テーブルを1つ1つ回りながら演奏することもあるのだとか。



今から約70年前、1937年にイタリアで製造されたという濱島さんお気に入りのバイオリン。中学生のころから、もう13~14年も使い続けているという。



ピアノ奏者の松村慶子さん、フルート奏者の上地弘恵さんと濱島さんによるユニット。異色の組み合わせだが、音の深みが似ているので優しく奥深い音になるという。世界中の音楽を届けたい、世界にはばたきたいという思いを込めて「wing」というユニット名に。

ジャンルの隔てなくいろいろな曲に挑戦しているという濱島さん。「今後は僕にしかできないオリジナル曲を作って、いつかCDをリリースしたいです。でもやっぱり生演奏が一番なんで、1度聴いてほしい!」。

バイオリンの音色を、生で、それも目の前で聴いたことってありますか? ちよっと近寄りたいたいという固定観念を瞬間にして打ち破ってくれたのが、濱島さんのバイオリン。クラシックからポップスまでバイオリンならではのアレンジで弾きこなし、あつという間に聴き手をバイオリンの世界に連れて行ってくれる。どっしりとした奥深く厚い音なのに、優しさにあふれている美しい音色。彼にしか出せないその音は、これまでコンサートやライブなどで多くの人を魅了してきた。現在は演奏者としてだけでなく、老人医療施設の音楽療法士としても活躍している。彼の曲を弾いて懐かしんだり利用者と一緒に歌ったりと、音楽を使って人の心を解きほぐしているのだ。「僕のバイオリンを聴いて涙を流して喜んでくれる人がいると、僕までうれしくなるんです。与える側でいなきゃいけないのに、自分が助けられている部分が大きくて。僕は、音楽が持っている不思議な力を借りて、幸せをおすすめわけがしたいって思うんです」。そんな彼の感情がそのまま表れているから、すごく柔らかくて優しい音になるのだろう。取材後、私のリクエストに応じて1曲演奏してくれた。その音色に心揺さぶられ、高ぶっていた感情が液体となって瞳から流れ落ちそうになったのも事実。時間を忘れて彼のバイオリンに聴き入っていた私も、すっかり彼に幸せをおすすめわけしてもらってきた1人なんです。

バイオリニスト 濱島 秀行

HIDEYUKI HAMAJIMA

音楽一家に生まれ、5歳からバイオリンを始める。これまで室内楽団に所属して演奏会に出演したり、ソロでコンサートやライブを行ってきた。現在はバイオリン・フルート・ピアノのユニット「wing」とソロの活動を並行して行っている。また、社会福祉士の免許を取得中、老人医療施設で岐阜県認定の音楽療法士としても活躍中。

推薦:音楽福祉きらら企画

INFORMATION

- ライブ
9月23日(祝) 19:30~
※毎月第4土曜日に豆茶房にて無料ライブを開催。
- 濱島秀行のホームページ
<http://www.hamajima-violin.net>



珈琲館 豆茶房

岐阜市北島5-3-5 ☎058-233-7560
8:45~OS20:30 火曜定休(祝は営業)
P有(26台)

text/Maiko Goto photo/スタジオ C-PWS location/豆茶房